

建物竣工100年記念

# デジタルツイン 体験会



田中絹代ぶんか館  
(旧下関電信局電話分室)

デジタルツインの世界を実現するため、3Dレーザースキャナーを用いた計測体験会を開催します。

現実空間の空間情報を取得し、サイバー空間内に現実空間の環境を再現するため、3Dスキャナーを利用した計測体験会を行います。

※後日、参加者には取得した空間情報の閲覧が可能となるアクセス先のURLをお知らせします。

2024

3/8 金

10:00 ▶ 16:50 (開場 9:30)

建物視察：門司電気通信レトロ館（北九州市門司区浜町4-1）  
計測体験：田中絹代ぶんか館ミニホール（山口県下関市田中町5-7）

定員 20名

(要申込・先着順)

見  
学  
体  
験  
内  
容

- ▶ 10:00~11:30 門司電気通信レトロ館（現地集合）・建物視察（デジタルツインの事例建物）
- ▶ 11:30~13:00 各自で移動（関門連絡船等）
- ▶ 13:00~16:50 田中絹代ぶんか館（現地集合）
  - ・概要説明
  - ・3Dスキャナーの取扱方法
  - ・計測体験(建物内部・外部)

受講費（資料代等含む）：5,500円（税込）



## 申込方法

電子メール(e-mail)にて「体験会参加希望」と連絡先の「会社名」、「氏名」、「電話番号」を記入の上、[3d-taikens@kke.co.jp](mailto:3d-taikens@kke.co.jp) までお申し込み下さい。体験会参加者用の資料をメールいたします。

- ・午後からの参加（建物計測体験）も受付いたします。
- ・募集の人数は、新型コロナウイルスの感染拡大の状況により変動する場合があります。
- ・電子メールでの申し込みができない場合は電話にて下記までお問合せ下さい。

申込期間

2/14（水）▶ 3/1（金）



ANNIVERSARY  
SINCE 1924



■計測体験  
田中絹代ぶんか館  
設計：逓信省宮崎課

■建物見学  
門司電気通信レトロ館  
設計：山田守  
2022年計測済み（WEB公開中）



ANNIVERSARY  
SINCE 1924



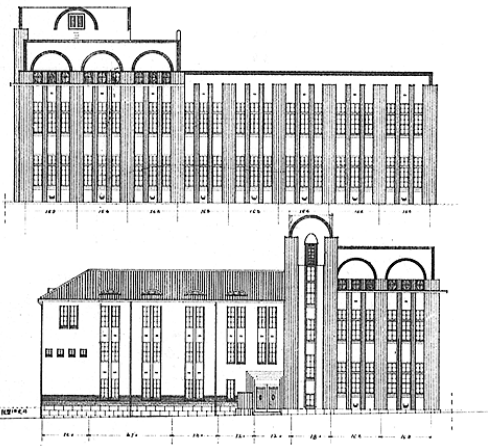
# 旧逓信省下関電信局電話分室

## ■建物解説

旧下関電信局電話分室は、3年の歳月と巨費をかけ1924年（大正13年）に竣工したと当時の新聞で紹介されていた。日本の近代建築の発展の過程や下関の歴史を語るうえで貴重な建物であるとして2002年（平成14年）に下関市の有形文化財、2017年に日本遺産に指定されている。

外観の意匠の特徴として、塔屋屋根の曲面形状、アーチ窓、柱頭飾りのないフルテイング付列柱など、ヨーロッパ興った近代建築運動（モダニズムデザイン）の影響を大きく受けていることがわかる。また、周辺の建物が火災の時に窓からの延焼を防ぐため、流水防火装置（ドレンチャ装置）と呼ばれる防火設備が備えられていた。

建物の設計は逓信省営繕課によるもので、帝国大学を卒業した創作意欲の高い優秀な人材ばかりが在籍していた。彼らは過去の古典的な芸術様式から分離し、生活や機能と結びついた新しい造形芸術の創造をめざしていた。この考えは日本初の建築運動であった「分離派建築会」の理念と彼らの傾向は共通していた。その証に分離派建築会の主要メンバー、逓信省営繕課に所属していた山田守の分離派建築会の作品2（1921年（大正10））で発表した「ある電話局の草案」から伺える。意匠デザインがこの建物に酷似していることがその理由である。



ある電話局の草案 1921年（大正10）

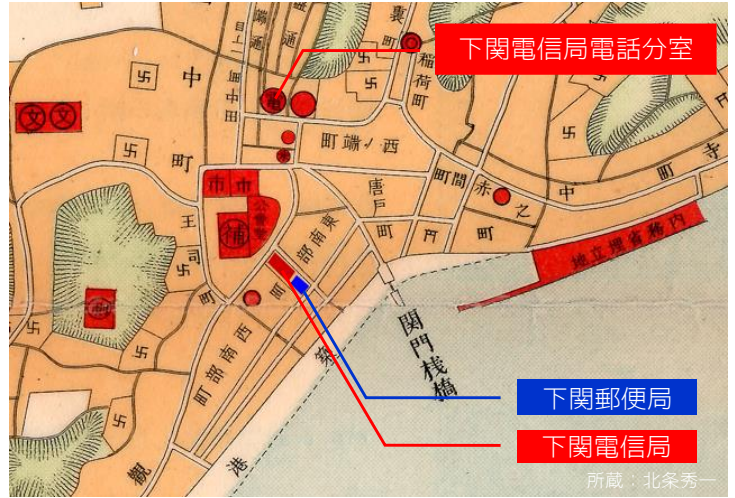
建物が建設された大正後期は、電話事業の拡大と効率の良い交換機（磁石式から共電式）の導入が全国の都市部を中心に早急に求められていた時代にあり、逓信省営繕課では標準化による電話局舎の建築を推し進めていた。それ故に、この建物に類似したデザインを持つ電話局が全国の主要都市を中心に建設された。しかし、この建物の建設中の1923年（大正12）9月1日に起きた関東大震災が起因となり、今までの標準設計の考え方は立ち行かなくなってしまう。震災からの復興も急ピッチで進められ、建物の構造体を強化した震災復興型の標準局舎の設計へと変わってしまった。

そのような経緯もあり、戦後においてデザインが類似する他の建物は、老朽化とともにほとんど解体されてしまった。この建物にも解体の危機が訪れたが、市民からの保存運動によって1998年に正式に保存が決定し、建物の復元改修工事が2008年から行われることになり、田中絹代ぶんか館を愛称名に新たなスタートを迎えることになった。

日本の分離派様式の意匠の特徴を持った、現存する数少ない建物の一つである。



現田中絹代ぶんか館 2014年4月撮影



1923年（大正12）下関市街地図



2階交換室 1926年1月（大正15）撮影

## 【建物概要】

設計者：逓信省営繕課  
施工者：大林組  
構造：RC造一部煉瓦造3階建  
所在地：下関市田中町5-7  
敷地面積：760.38㎡  
建築面積：362.06㎡  
1階床面積：368.84㎡  
2階床面積：362.06㎡  
3階床面積：105.57㎡  
延床面積：836.47㎡  
軒高：14.60m  
最高高さ：19.59m

## 【建物沿革】

1924年 建物竣工  
1966年 通信設備が市外局に統合  
1969年 所有が電電公社から下関市に移管  
1970年 下関市福祉センター  
1977年 教育委員会  
1991年 老朽化により廃止  
2002年 下関市有形文化財に指定  
2008年 改修工事  
2009年 田中絹代ぶんか館オープン  
2014年 オープン5周年、建物竣工90周年  
2017年 日本遺産認定  
2024年 建物竣工100周年